

言語・文学委員会 人文学の国際化と日本語分科会

第 25 期 第 2 回分科会 議事要旨

開催日時：2021 年 2 月 13 日（土） 15 時～18 時

開催場所：Zoom でのオンライン開催

参加者（敬称略）：窪菌晴夫、桑原聡、田口紀子、竹本幹夫、巽孝之、沼野充義、
日比谷潤子、松森晶子、米田信子

議題

- (1) 前回議事録について
- (2) 参考人による我が国情報化の現状と将来に関する解説及び質疑
 - ① 高野明彦氏（国立情報学研究所）
「我が国の情報化の将来像と国立情報学研究所」
 - ② 大向一輝氏（東京大学）「CINII の課題と今後の方向」
 - ③ 徳原直子氏（国立国会図書館）
「国立国会図書館の情報化事業の全体像と JAPANSEARCH」
- (3) 提言案「人文知の共有」について ー日本学術会議から出された 5 項目の検討事項についてー
- (4) 今後の予定

議事内容

1. 前回（第 2 回）の分科会（2020 年 11 月 29 日（日）開催）の議事録を承認した。
2. 提言に盛り込む予定の Japan Studies の構築に関連して、まず 3 名の専門家の方から、デジタルアーカイブの現状についてそれぞれ 20～30 分の解説をいただき、その後、本分科会メンバーとの質疑応答と討論を行った。
 - ①高野氏（国立情報学研究所（以下 Nii））
デジタルアーカイブジャパン推進実務者検討委員会の過去 3 年半の経過と、Japan Search（書籍・文化財・メディア芸術など、さまざまな分野のデジタルアーカイブと連携して、我が国が保有する多様なコンテンツのメタデータをまとめて検索できる分野横断型統合ポータル）発足の経緯についてお話しいただいた。また現在 Nii が保有しているデジタルアーカイブの内容、およびその情報発信の将来像についても解説いただいた。
 - ②大向氏「CINII の課題と今後の方向」
CiNii のコンテンツシステム開発室の責任者を長年務めてこられた経験に基づき、CiNii 発足に至る経緯について解説いただいた後、これまで Nii が開発してきた CiNii

検索エンジンの概要、データ収集のための技術開発、情報基盤整備、使いやすさを追求したユーザーインターフェイスなどへの取り組み、および今後の展望について、お話しいただいた。

③ 徳原氏（国立国会図書館）

国立国会図書館（NDL）の内のインターネット資料収集保存事業（WARP）について説明をいただいた。どのような方法と方針に基づいて情報を収集し、現在どこまでデジタル化が進んでいるか、またデジタル情報資源の利用状況、さらに全国の公共・大学・専門図書館や学術研究機関等が提供する資料やデジタルコンテンツを統合的に検索できる「国立国会図書館サーチ（以下 NDL サーチ）」についても説明いただいた。引き続き、令和 2 年 8 月に正式版が公開された Japan Search について、その分野・地域コミュニティの「つなぎ役」としての役割、その活用事例や活用のアイデアなどについての詳細な説明をいただいた。

Q&A およびディスカッション

- 窪菌：国外への人文知の情報発信が本分科会のテーマであるが、現状では日本の人文
学の研究はほとんど日本語を媒介に成されている。CiNii や Japan Search は、日
本語が読み書きできない人でも検索できるシステムなのか。
大向：タイトル等が英訳されていれば、英語で検索も可能である。
徳原：タイトル・著者等のメタデータは、ローマ字対応で行っている。
- 窪菌： CiNii と Japan Search の連携は行われているのか。
徳原：現在は連携されていない（一方、NDL サーチと CiNii は連携している）。
高野：かならずしも連携する必要はない。教育利用、学術・研究利用といった目的
別に、ポータルをいくつか用意しておくのがよい。
- 竹本：これらのデジタル資料は、利用者の側に、利用についてのかかなりの知識がな
いと有効に活用できないのではないか
高野：データによってその役割が異なるために、そうになっている。それらのデジ
タル資料どうしが、互いに協力し合えることが重要である。
- 田口： Japan Search の仕組みと実績が分かってきたので、今回（提言で提案するポ
ータルは）海外発信のためにあらたなポータルを構築するより、Japan Search
に組み入れてもらうほうが得策かもしれない。
- 田口：これまでアクセスすることが容易ではなかった古い（絶版の）図書、小規模の
学会の情報、同人誌などについてもデジタル保存し、恒常的アクセスを担保する
ことが重要である。そのためには、（今回の提言で提案するポータルは）CiNii の
一部門とすることも一案である。
徳原：国立国会図書館（NDL サーチ）に組み入れ、それを発信していけば、確実
に保存・配信していくことが可能となる。

●窪菌：今回の提言で、あらたに Japan Studies というプラットフォームを立ち上げることを目指すのではなく、CiNii を活用することで十分目的にかなうということになるか。

●田口：小規模の学会や同人誌などは、各機関のほうから、国立国会図書館にデジタル化の申請を行うべきなのか。

徳原：紙媒体のものであれば、送っていただければデジタルデータ化することが可能である。またデジタルデータであれば、(著作権処理を行ったうえで) 国立国会図書館に送っていただけるとよい。

●竹本：メタデータについてのコンテンツの内容に応じた統一的な規則があるのか、またはコンテンツごとの個別の規則があるのか。

大向：著書、論文等については、国会図書館が定めている規則、大学図書館が定めている規則、公共図書館が定めている規則などがある。

●著作権の問題について

高野：公開には著作権の壁があるが、データ保存を目的としたものであれば、著作権処理をせずにデジタル化することが、国会図書館には認められている。国会図書館を通じて、そこから発信していくことが可能であろう。

徳原：絶版・希少書のデジタル化は、大学図書館にも認められている。個々の大学図書館がデジタル化していけば、その情報が配信される。

以上、17:20 まで。ここで参考人お三方は退出された。

3. 日本学術会議から出された 5 項目の検討事項について

今期の提言をより社会の負託に応えたものにするために、学術会議から以下の項目(1)～(5)について、回答が求められた。その 5 項目についての検討を行った。

(1) 人類的、社会的議題としての重要性を備えたテーマを対象とした審議になっているか。分野横断的な議論を促すものになっているか。

➡「人文知の共有、人文学の国際化」は、人類的・社会的に重要なテーマである。またこれは分野横断的なテーマでもあり、特に情報学との関連性が強い。

(2) 日本の学術の振興の観点から行う審議の場合、学協会との連携がいかされたものになっているか。学協会での議論で代替可能なものになっていないか。

➡今回の提言で扱うことは、個々の学協会では対応できないことである。分科会の各委員がそれぞれ所属学会を異にしており、そこを代表するという姿勢で領域横断的な審議を行っている。

(3) 分科会の活動内容は、上記 1, 2 の観点から見て適切なものとなっているか。

➡適切なものとなっている。

(4) 読者を想定した審議と提言等になっているか。

➡理解できるものになっている。

(5) 提言等を社会に発信する際の方策について、具体的に検討しているか。

➡社会の発信力の強化は、本分科会だけの課題ではない。むしろ、学術会議全体の問題として考えることを提案したい。今回の提言の趣旨をSNSで配信する、(特に海外へ向けて)英語の要旨を英訳して発信する、などの方略を検討してほしい。

4. 今後の予定

次回(第3回)の分科会までにワーキンググループ(WG)を開き、各WGが討論した結果をA4数枚にまとめて持ち寄り、それをもとに提言の具体的内容を検討することとした。

●第3回分科会(Zoom開催)予定:3月上旬中に正式に決定することとする。

第1候補 4月18日(日)午後3時から

第2候補 4月17日(土)午後1時から

●各ワーキンググループの会合(Zoom開催)予定:

WG2(窪菌先生のグループ):2月28日(日)午前10時から

WG3(竹本先生のグループ):2月22日(月)午前10時から

以上
(文責:松森)